

The Pride of Senshu!

経済学部 内山 哲朗

大学という「守られた場」から社会という「未知の大海」へといよいよ漕ぎ出すときがやってきました。皆さんがこれから向き合わなければならない課題の多くはほとんどこの場合、「正解」がどこかに潜んでいるといった性質のものでは、おそらくありません。

自分自身に夢中になれる

法学部長 白藤 博行

リュックサックいっぱいの夢と希望をもって、大学を旅立つ君たち。心から卒業おめでとう。専修大学で未来を拓くエネルギーは十分に蓄えた。これからは、世界で一番自分を好きになることができる自分になって、もっともっと自分自身に夢中になってほしい。

志を原動力に

経営学部 馬場 杉夫

卒業おめでとう。達成感と不安と期待があふれていることでしょう。社会でモノゴトを成し遂げるために、皆さんは、さまざまなことを大学で修得しました。専門知識はもろろんのこと、適切なプロセスや準備の大切さを学ぶとともに、わからないことに取り組み、実際の心構えを身につけて、さらには、人的ネットワークまで構築しました。

新たな門出を迎えて

商学部長 佐々木 重人

商学部は、今年度創立50周年を迎えました。来年度は、次の半世紀への第一歩を踏み出すこととなります。これまで商学部は、多くの方々からのご助力をいただきながら、意を尽くして精いっぱい学生諸君の成長をサポートしてきたという自負を持っており、引き続き、未来という未知の世界でもあり、襟を正しつつも、新たなスタートラインに立ち、武者震いがする思いです。

思い出より充実した今を

文学部長 廣瀬 玲子

ご卒業おめでとうございます。皆さんが大学で過ごした時間はどのようなものでしたか。たくさん思い出が胸によみがえる人もいることでしょう。でも、今日を限り、皆さんは大学を離れ、別の世界へと二歩を踏み出します。仕事を始める人も、研究を続ける人も、

明日から自己教育力で

ネットワーク情報学部長 江原 淳

課題とグループワークが多く、自分から動かないと何も達成できないネットワーク情報学部のカリキュラムを成し遂げて皆さんは今日を迎えることができました。さまざまなことを学んだと思いますが、学んだ知識はすぐに古くなります。これからは自分の関わる領域で自分を生涯教育し続ける「自己教育力」が一番大切となります。

年経て輝く友情と思い出

人間科学部長 山上 精次

卒業おめでとうございます。人間科学部では実験・実習科目が多く、それらの科目ではグループでの協同作業が求められるために、人間関係を維持・形成して課題に立ち向かうことの大切さを体験、体得したと思います。学生時代にグループ作業の中で苦楽を共にした仲間が生涯の友人となります。



卒業生の皆さんへ、私のからの贈る言葉といたします。



柔張れ！



生を歩めるよう、卒業後も私たちを応援してください。



目標を見据えて研鑽していきたく、共に頑張りましょう。



そんな充実した毎日を送られるように祈っています。



この優位性を十分に発揮して活躍されることを期待します。



す輝きを増します。友だちを大事にしながらい生を歩んでください。

学部長・大学院研究科長・法科大学院長からの「贈る言葉」

今日は始まりの日

経済学研究科長 徳田 賢二

大学院の課程を修了し修士または博士号を取得された皆さん、心からお祝い申し上げます。修了したこの日は「終わりでなく、始まり」の日です。研鑽を積み取った学位を活かすのは、これからのあなた自身の真摯な姿勢、取り組みです。日に日に厳しさを増す現代経済社会で問われるのは、いずれの分野でも「差別化された高い専門性」です。学位に示された専門性を土台に、さらに高みを目指し研鑽を怠りなく進めていくことが、この学位を取得するために費やしてきた自身の努力に報いる唯一の道、真の差別化への道です。



願っています。

貴重な経験を大事にして

法学研究科長 小川 浩三

修了おめでとうございます。他の研究科では学部レベルで卒論を書くなど自発的・専門的な研究を行い、それをさらに大学院で発展させるということが一般的ですが、法学部では卒論がありませんので、最初の論文が修士論文ということになります。しかも修士論文は学問的にある程度のレベルが要求されないので、一層難しかったのではないかと思います。



展を期待しております。

しなやかにそして強く

文学研究科長 広田 康生

大学院の課程を修了し学位を取得された皆さん、おめでとうございます。人生の大切な時期に資料や作品と格闘し、実験や調査に専念し、迷いとまどいながらも、それぞれの研究テーマを一本の論文としてまとめるという作業は厳しく、しかし、楽しい日々であったと想像します。大学院での研鑽の日々は、今後、研究者としての道を歩むの、社会での活躍を選択するのであれ、大変貴重な経験の連続であったと思います。



を祈念いたします。

学位をどのように生かすか

経営学研究科長 加藤 茂夫

学位を取得された皆さん、おめでとうございます。「耐雪梅 花麗 経霜楓葉丹」はあなたたちの心境を見事に表現している漢文の一節です。私は院生時代に詩吟を習っていました。この詩が大好きで、士気を鼓舞しました。



いと思います。

専門性を生かして活躍を

商学研究科長 渡辺 達朗

大学院修了おめでとうござい。大学院で過ごした数年間は、限られた人生のうち「学ぶ」と「真摯に向き合った貴重な時間であったと思います。それは長いようで短く、濃密なものだったのではないのでしょうか。皆さんは修士や博士という学位を得る中で、専門的な知識を修得したり、税理士などの専門的資格の取得に一步前進すると同時に、学ぶことの楽しさを理解して、学ぶ仲間と出会うことができたのではないのでしょうか。



います。

冷静な観察者の姿勢で

法科大学院長 石村 修

法科大学院での学位(法務博士)を修得され、11期目の修了生になられた皆さんに、スタッフを代表して心からのお祝いの言葉を送ります。多くの修了生は、5月の試験のことで頭がいっぱいになっているはず。今は準備期間を終えて、総括の時期にすでに入っています。法律家になるのに必要な知識と技能は、皆さんにすでに伝授されました。この2、3年で成長した自分を確信し、何を問われても畏れることはありません。目覚めた自分は冷静な観察者であり、静態にしている条文を、一転させて蘇らせる実力を身に纏うだけになりました。常に先を見つめ、自分が大きく羽ばたく未来を信じてください。良い結果を待っています。



います。